

わずかな煙も素早くキャッチ！

発煙場所も特定可能な吸引式煙検知器です。

SAS *Suction Alarm System*

■ 吸引式煙検知器 **S A S (Suction Alarm System)** とは・・・

S A S は発煙場所も特定可能な吸引式煙検知器です。従来の吸引式煙検知器と異なり、ファンを内蔵した受信盤から伸ばした配管上に、個別に検知モジュール（高感度 0.1%/m 最大 31 個）を設けております。

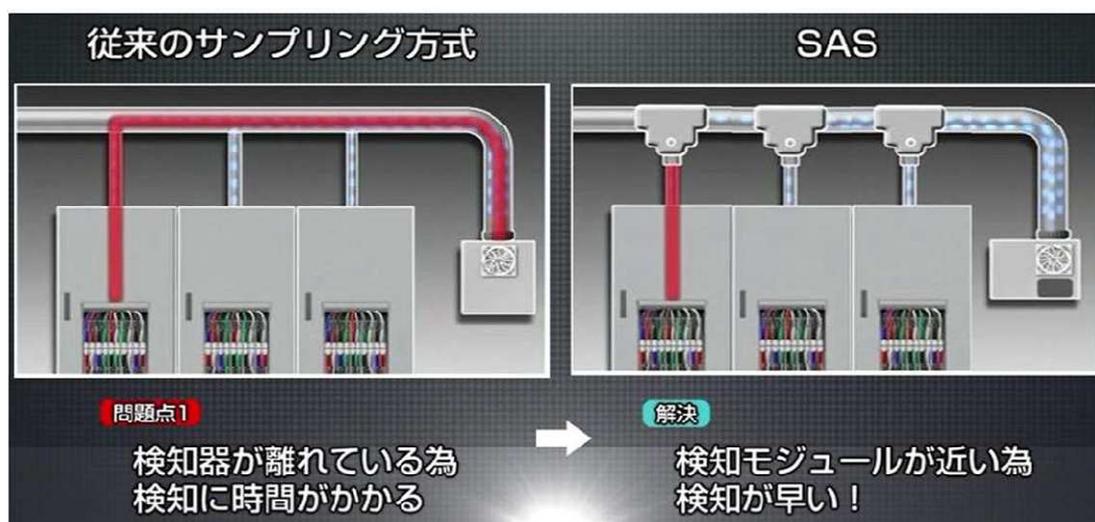
これにより従来の吸引式煙検知器では実現出来なかったより確かな安全対策が可能となりました。



■ 従来の吸引式煙検知器（サンプリング方式）との違い

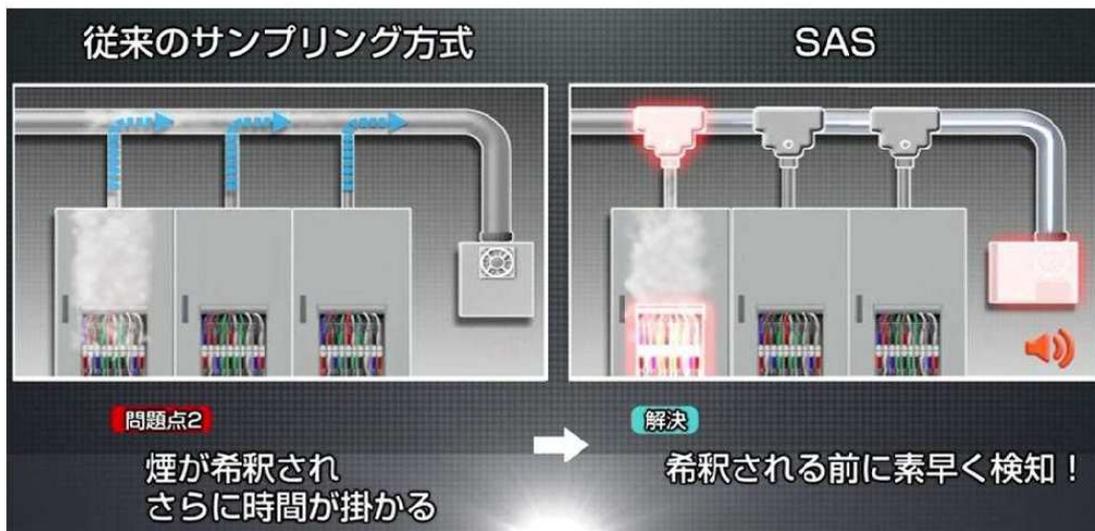
① 検知速度の向上

監視場所と検知モジュールの距離が近いため、より早く異常を検知します。



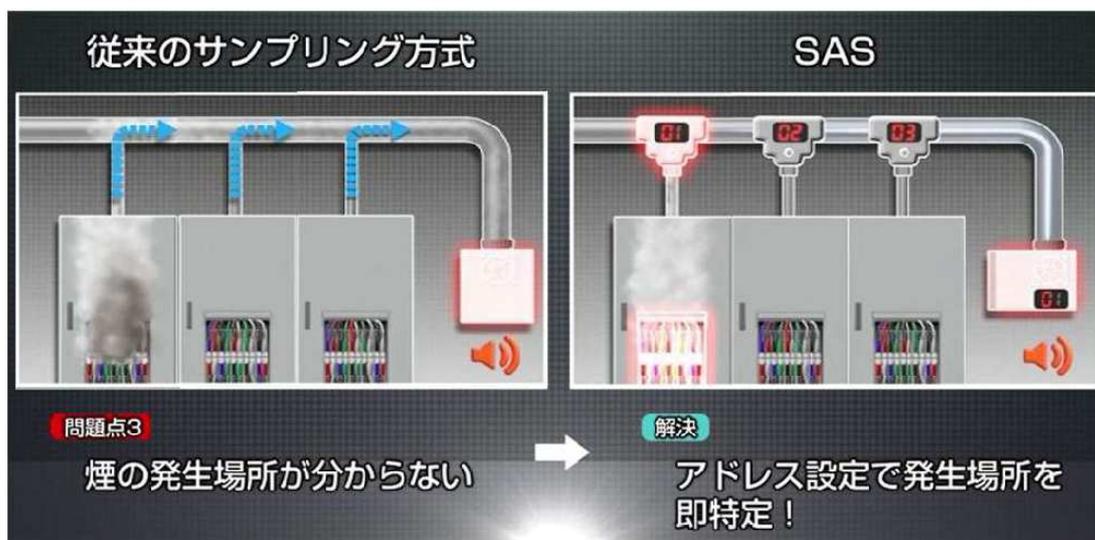
② 正確な検知

吸引管内の煙濃度に左右されませんので、煙の希釈による検知漏れがありません。



③ 発煙場所の特定

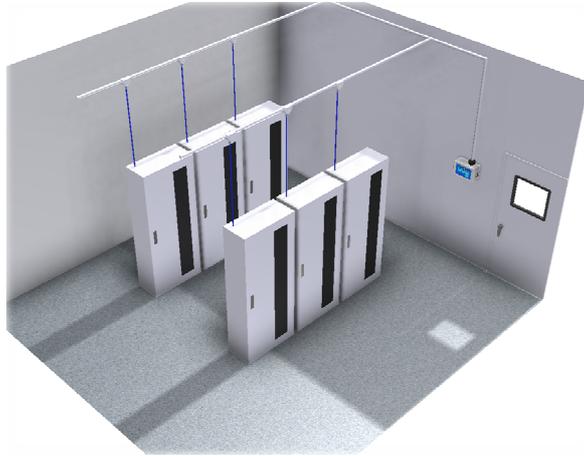
配管上に検知モジュールを設置することで、発煙場所の特定が可能となりました。



■ 多様な設置方法

受信機と検知モジュールを個別に設けることで、環境や建物構造に合わせた様々な設置方法が可能になりました。

コンピュータールームの異常検知



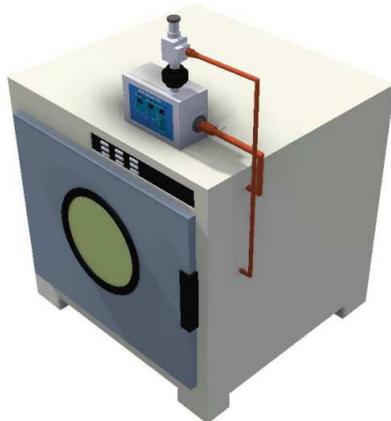
コンピュータールームで火災が発生する場合、その大半はケーブルや電子機器が密集しているサーバーラック内で発生します。このため、検知器から伸ばした吸引チューブを盤内に引き込み、盤内の空気を直接吸引することで、異常を早期に検知できます。また、検知器を盤の外部に設置することで、メンテナンス性も向上します。

銅管によるリチウムイオン電池充放電試験装置の異常検知



槽内の温度が高温（60度以上）に達するリチウムイオン電池充放電試験装置の異常検知においては、チューブの代わりに細い銅管を検知器に取り付け、槽内の煙を吸引します。熱伝導率の高い銅管を使用することで、吸引した煙を検知器に影響を与えない温度まで冷却します。

銅管による高温槽の異常検知



高温槽の異常検知においては、槽内が高温になるためリチウムイオン電池充放電試験装置の異常検知と同様に、チューブの代わりに細い銅管を検知器に取り付け、槽内より吸引した煙を検知器に影響を与えない温度まで冷却します。また、吸引の影響による槽内の環境変化を小さくするため、受信盤の排気を槽内に戻します。

■ 一括監視システム「CORE」

一括監視システム「CORE」を使用することで、監視室にしながら現場の状況を逐一把握出来ます。

